

# 診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

第 22 号／令和 2 年 1 月

URL <https://www.n-smeca.jp/>

TEL 025-378-4021

FAX 025-378-4022

## 令和元年度を振り返って

### 一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

会長 土田正憲



あけましておめでとうございます。平素は当協会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和元年度も残りあと 3 ヶ月。当協会は今年度、理論政策更新研修の複数開催、「中小企業診断士の日」イベント「中小企業経営シンポジウム in 新潟」の開催、士業連携による「12の専門家による無料相談」などに取り組んできました。

法定の理論政策更新研修は、例年、新潟市において 1 回のみ開催していましたが、今年度は長岡市においても開催しました。また、この研修ではじめての試みとして、事業承継研究会が企画・運営を担当しました。複数回の開催により受講者数が増加したことは大変うれしく思います。次年度以降も新潟と長岡の 2 つの会場で開催することを望んでいます。

11 月には「中小企業経営シンポジウム in 新潟」を開催しました。当日は株式会社良品計画の代表取締役会長であられる金井政明氏による基調講演のほか、当協会の会員による分科会が行われました。このシンポジウムが中小企業診断士並びに新潟県中小企業診断士協会の知名度向上という、当協会としての目的の実現に貢献したことと思っています。

さて、昨今、我が国では中小企業の事業承継が問題となっています。中小企業庁は平成 29 年に「事業承継 5 ヶ年計画」を策定し、事業承継の集中実施に向けて取り組みを始めました。これにあたって補助金や税制面の特例など新たな支援策を打ち出しています。当協会は新潟県事業承継ネットワークに構成機関として協力しており、今年度は当協会の会員 6 名がブロックコーディネーターに就任しました。事業承継は中小企業において必ず起こる重要な経営課題です。私は常々、中小企業診断士こそ事業承継を支援すべきと申し上げています。その意味で、当協会の会員がブロックコーディネーターとして新潟県内の中小企業を支援することにうれしく思うとともに大きな期待もっています。

令和の時代。昨年 10 月の消費増税や製造業に対する米中貿易摩擦など海外経済の影響が長期化するほか、自然災害の発生など中小企業を取り巻く経営環境の変化はこれまでにないほど激しさを増しています。このような状況にともない、中小企業診断士による中小企業支援に対する期待も高まっています。当協会はこれからも中小企業の振興に向けて鋭意取り組んでまいります。引き続きよろしく願いいたします。

## 協会活動報告

### 「中小企業経営シンポジウム in 新潟」開催報告 事務局長 土田克則

昭和 23 年 11 月 4 日に中小企業庁により「中小企業診断実施基本要領」が制定され「中小企業診断士制度」が発足しました。中小企業診断協会では、11 月 4 日を「中小企業診断士の日」とし、11 月 4 日の前後に各都道府県で関連イベントを開催することになっています。

新潟県協会では、昨年度に続いて、中小企業経営者、支援機関向けに、中小企業経営に役立つイベントとして、11 月 13 日（水）に新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）で「中小企業経営シンポジウム in 新潟」を開催いたしました。

基調講演では、日本を代表するグローバル小売業の「無印良品」ブランドを展開している株式会社良品計画の代表取締役会長の金井政明氏をお招きして『MUJI が生まれる「思考」と「言葉」～幸せな経済に向かって～』というテーマでご講演いただきました。個人的な感想としては、心が洗われるというか、いろいろと反省してしまうというか、不思議な感覚で、聞いているだけで、人間的に成長したような気になれる講演でした。

基調講演の後は、3つの分科会を開催しました。

○企業再生支援研究会 代表 上村修先生

「なぜ、経営改善は進まないのか？～売上偏重、どんぶり勘定からの脱却～」



○事業承継研究会 会員 平野康晴先生

「これだけは押さえておこう！事業承継成功の秘訣」



○当協会会員 今井進太郎先生

グローバルマーケティング株式会社 代表取締役  
「マーケティングで中小企業の売上アップを実現する」



私はすべての分科会に少しずつ出席しましたが、どこの会場も熱気に溢れていました。内容も素晴らしく、さすが、中小企業診断士という内容でした。まさしく、「中小企業診断士の日」に相応しい、中小企業診断士の存在を知らしめる分科会でした。

分化会の後は、ホテル日航新潟で懇親会を盛大に開催いたしました。シンポジウムは定員の 100 名、懇親会は 23 名と、大変多くの方にご参加いただきました。誠にありがとうございました。来年度のことは分かりませんが、診断士の日（11 月 4 日）前後に、何かをやるはずですので、よろしく願いいたします。

## 12の専門家による無料相談会

## 広報委員会

令和元年11月15日（金）朱鷺メッセ中会議室にて「困りごと何でも一挙解決！ 12の専門家による無料相談会」が開催され、当協会から5名の会員が相談員として参加しました。

当日は、「受付担当者が聞き取りにより相談者の悩みを整理し、待機している適切な専門家（単独士業・複数士業）に声がけ。そして、会場に設けられた11の相談ブースで相談開始。」というスタイルで行われました。相談内容の複雑さや時系列に沿って、悩み解決に必要な知識が変わるなど、複数士業の知識を合わせなければ対応できない案件もあり、まさしく困りごとが何でも一挙解決する相談会という印象を持ちました。

昨年度は中小企業診断士が直接関係する相談事が少なかったと聞いておりましたが、今年度は経営相談案件もありました。中小企業診断士の守備範囲を知ってもらうこと、本相談会自体の認知が広まれば、中小企業診断士として貢献できる相談内容も増えていくと思いました。

以下概要をご報告します。

■参加士業及び参加人数：12士業、合計72名

■相談件数：73件

## ■相談内容

・遺言・相続関係	17件
・離婚、成年後見など	15件
・登記、境界、賃貸借、売買など	15件
・税金関係（税務申告を含む）	11件
・労働関係（労働者側・使用者側）	6件
・金銭トラブル（債権回収含む）	6件
・クレーム対応、経営相談、会社設立等	6件
・年金関係	4件
・特許・知財関係	3件
・その他（相隣トラブル、刑事手続）	2件

以上



当研究会は、本年度計3回勉強会（研究会）を開催することを目標に活動を展開しています。

第1回研究会は、外部機関との連携をテーマとして、9月27日（金）に開催。新潟県中小企業再生支援協議会 統括責任者 田中満様から、「新潟県中小企業再生支援協議会の活動状況と今後の方向性」とのテーマでご講演頂きました。また当研究会代表から、「企業再生支援における公的支援機関の活用」「窮境要因の早期把握の重要性」と題し講演を行いました。

第2回研究会は、テーマ（スキル）別研究会として、11月8日（金）に開催。田中昭様（北越銀行 元取締役審査部長）から「要因別資金繰り表を学ぶ」と題して、実践的な資金繰り分析についてご講演頂きました。

また、11月13日（水）に開催された診断士の日イベント「中小企業経営シンポジウム in 新潟」の分科会講師を当研究会が担当し、「なぜ、経営改善は進まないか？～売上偏重、どんぶり勘定からの脱却～」と題して利益重視、管理会計実行による経営改善の進め方について当研究会代表が講演を行いました。

今年度最後の実施となる第3回研究会は、業種別研究会として、来年2月29日（土）に開催を予定しており、「旅館・サービス業の事業再生の進め方（ポイント）」と題して、外部の業種専門コンサルタントから、再生事例も交えてご講演頂く予定となっています。

## 事業承継研究会

代表 土田正憲

今年度の事業承継研究会は、研究会のほか、理論政策更新研修の企画・運営・講義、「中小企業経営シンポジウム in 新潟」における分科会での発表を行いました。

### ○ 理論政策更新研修

9月7日（土）、長岡商工会議所において理論政策更新研修を開催しました。この研修は例年、年1回のみ新潟市内での開催でしたが、今年度は事業承継研究会が企画・運営し、これまでの新潟市内での開催に加えて長岡市内でも開催しました。土田克則会員、高野裕会員による講義も行われました。

### ○ 「中小企業経営シンポジウム in 新潟」

「中小企業診断士の日」のイベントである、「中小企業経営シンポジウム in 新潟」の分科会において、平野康晴会員が「これだけは押さえておこう！事業承継成功の秘訣」と題して発表を行いました。

### ○ 事業承継研究会

11月2日（土）、クロスパル新潟において事業承継研究会を開催しました。東京中小企業投資育成株式会社の寺岡俊二氏を講師にお招きし、事業承継における投資育成株式会社の活用方法について説明を受けました。

事業承継研究会では、今後、弁護士を講師として「経営者保証ガイドライン」の活用について説明を受ける予定です。ご興味のある方は、ぜひご入会ください。随時受け付けています。

### 【問い合わせ先】

事業承継研究会 代表 土田正憲

E-Mail:m.tsuchida@ccnslt.com

## 診断士になりたい人を支援する会

代表 土田克則

当会は、中小企業診断士を目指す人たちの接点の場、その人達と協会に所属する現役診断士との接点の場を提供することを主な目的として、一人でも多くの方が、中小企業診断士試験に合格できるように支援しています。今年度は、これまで、以下のような会を開催いたしました。

### ○4月25日「2次試験問題の解き方を研究する会」

診断士2名、診断士になりたい人3名 計5名

### ○5月31日「診断士になりたい人との交流会」と

称してこの日で閉店する「魚國屋」での飲み会

診断士5名、診断士になりたい人4名 計9名

### ○8月17日「2次試験問題の解き方を研究する会」

診断士3名、診断士になりたい人6名 計9名

### ○9月21日「2次試験問題の解き方を研究する会」

診断士5名、診断士になりたい人4名 計9名

### ○10月5日「2次試験問題の解き方を研究する会」

診断士5名、診断士になりたい人6名 計11名

2次試験の直前の2回（9月21日、10月5日）

は、事例Ⅰ～Ⅳの最近の難問に挑戦し、受験生もかなり力が付いたかに思われました。参加した受験生は全員合格かと、期待していたのですが、今のところは…のようで。支援する側としても反省です。

今後も「情報交換会」、「試験問題の解き方を研究する会」、「単なる飲み会」を継続的に開催する予定にしております。メンバーは随時募集しておりますので、次のような方は、是非ご連絡ください。

○診断士の受験生を応援したい方

○（試験）勉強が好きな方

○ボランティア好きの方

○お酒を飲むことが好きな方

○中小企業診断士試験に合格したことがある方

支援を受けたい人も随時募集しております。皆様の周りに診断士を目指している方がいましたら、この会をご紹介いただけますと幸いです。

## 新入会員紹介

### 青年部会

#### 会長 長谷川貴一



青年部会の長谷川です。新年明けましておめでとうございます。年号が変わるなど大きな出来事があった年が明け、いかがお過ごしでしょうか。

令和元年、青年部会では会員相互の交流や情報交換などを目的に勉強会や会合を開催しました。数回の実施した中で、参加者は数名から数十名の回もありましたが、参加された会員の方同士で交流を深めることができました。

会合を開催した際、参加した会員からは、青年部でこういったことをしては面白いのではないかと、こういう方の話が聞きたい、こういう勉強会がしたいといった多くの意見がありました。これまでは、会議室でのメンバー持ち回りでの勉強会の開催を行った後、懇親会を行うといった流れが多かったのですが、企業訪問を行って勉強したいといった話もありました。本年は、会員から上がってきた意見をもとに様々な手法を活用して、会員同士の交流や情報交換を実施していきたいと思っております。

また、昨年5月は青年部会にて診断士協会員全体向けにセミナーを企画・開催しました。青年部会としては初めての取り組みでしたが、青年部会員で協力しながら実施することができました。本年、同様のセミナーを開催するかどうかは分かりませんが、青年部主催の会などがあった際には会員同士で意見を出し合いながら実施したいと思っております。

#### 長谷川伸一



初めまして。このたび入会をさせていただいた長谷川伸一と申します。今後ともどうぞよろしくお願いたします。会員に加えていただいた直後から、協会主催の研修会

や懇親会に参加、協栄信用組合様の研修講師にチャレンジ、12士業の相談会で専門家として参加するなど、様々な場面にしゃしゃり出ております。好奇心旺盛なだけですから呆れないでお付き合いいただけますと幸いです。

では、自己紹介をいたします。私は生まれも育ちも新潟の『シモ』（旧新潟市の下町）です。現在は新潟市江南区（旧亀田町）に住んでおります。

経歴は、K大学卒業後、県内地方銀行に入行。県内外の支店経験、審査部取引先支援室で融資先企業の経営支援に従事。某ゼネコンに出向して会社内部から経営支援する等、企業支援や企業再生の経験を積みました。また、最近まで出向していた経営者協会では組織運営とともに人事労務問題への取組みや人材育成セミナー運営などを経験しました。2018年10月に定年退職後、以前から勉強してきた中小企業診断士と産業カウンセラーの資格を取得し、2019年4月に株式会社中小企業経営研究所を設立し、経営コンサルタントとして独立し現在に至ります。小職が設立した会社の経営理念は以下の通り。①「社長や職員の内に答えはある」「解決策は現場にあり」をモットーに、話をよく聴いて強みを引き出し、伴に「強い組織」を創り上げる。②「仕組みがなければ儲けもの」基礎から作り上げていく。③一人一人に寄り添って人を活かし、働き甲斐のある職場を創る。

専門家である会員各位とのネットワークがお互いの成果に繋がると考えておりますので、誠に勝手ながら教えを乞うことが多いと存じます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 私のこだわり

### 金井信雄



今回は私の唯一の趣味について告白します。声帯のスポーツとでもいいますか、ここ数年カラオケに熱中しています。会社勤務時代は、暗くなると古町や殿町を飲み歩き、歌う機会も多かったのですが、近年はそういったことも無くなって

いました。復活のきっかけは、ある地域のまちづくり活動をお手伝いする中で、歌を通じた地域活性化のイベントを担当したことです。プロ歌手とのご縁もでき、手作りコンサートの事務局も経験しました。高齢者を中心にした歌声喫茶を今も毎月開催しています。そういった活動を通じて歌と接する機会も増え、カラオケに再び目覚めることになったわけです。家の近くにカラオケボックスがあり、散歩を兼ね歩いて行きます。時間は1.5時間と決めており、一人なので誰にも気兼ねなく歌うことができます。最初の頃は、昔ながらの昭和歌謡が中心でしたが、最近は新しい歌に挑戦するようになり、現在は地元出身の中澤卓也の曲を歌っています。移動の車の中で繰り返し聞いて覚えた曲を、一回歌っては録音した自分の歌を聞き、また歌うということを繰り返していると時間はすぐ過ぎてしまいます。一人で歌っているだけではつまらないので、他人にも聞いてもらいたくなります。採点が一定レベルを超えたものはカラオケサイトに上げ、他の人の評価を受けます。たまに行きつけの Snackbar で歌うこともありますが、年に似合わない歌のせいも、ただ下手なだけか、反応はいまいちです。現役時代は行くことができなかったコンサートにもできるだけ出掛けて、プロの歌を生で聴くようにしています。声帯も筋肉の一つですから、鍛えないと衰えるそうですし、声は診断士にとって大事な武器でもあります。仕事が重なりしばらく封印していたが、今宵はカラオケでトレーニングしようかな・・・

### 鳥羽章夫



社会のインフラともいえる物流。特に近年ではEC市場が急拡大する中で注目されている業界です。私はその物流事業で法人顧客に対し物流ロジスティクスの提案と営業管理を行っています。

特徴として個人プレーではなく組織（チーム）で戦略を立て実践し、大きな成果をあげなくてはなりません。成果を継続的に出していくために、私は次の3つのコトにこだわっています。

1つ目は知識創造理論の「SECIモデル」の思考を活用することです。顧客に寄り添い暗黙知の課題を「共有化」し、具体的な言語で形式知化として「表出化」し、他の組織部署の知識と組み合わせる新しい知として「連結化」、その新しい知を実践し「内面化」していく4つのプロセスを回転していく手法です。知識を組織的に創造できます。

2つ目はその暗黙知を自身が創るために「Interest - driven learning」興味を追いかける学びです。関心のある事柄に興味を持ち、深く考察する。するとその派生でまた新たな分野で興味が湧き深く考察する。またその派生を深く考察していくことで、知識の幅を広げていく方法です。最近は一見仕事に関係のないアート（芸術）や落語などに興味を持ち、学んでいます。結果的にマネジメントに役立つことが多々あります。

3つ目は「体力・健康」ランニングや自転車は以前からの趣味ですが、最近長女がテニスを始めたことで、私もテニスを25年ぶりに始めてみました。昔は気付かなかった、テニスの奥深さにどっぷり浸かっています。テニスは単なるスポーツではなく自分で瞬時に判断しなくてはならない「判断力」、長時間戦う「持久力」をはじめ、「瞬発力」「集中力」「アイデア」「知的教養」等の訓練の場になります。ひょっとしてテニスは知的総合格闘技かもしれないと感じています。

## 会員の書棚

### 浅田淳



私の紹介する本は、「AI vs 教科書が読めない子供たち」です。少し前に話題になりました。「AI」というものは、何ができて何ができないか、そのために人間には何が必要か、ということがわかります。

多くの方が、AIという言葉自体は知っていると思いますが、様々な誤解をされているのではないかと思います。本書では、AIが扱えるものは、数学で表現されるもの（理論・統計・確率）であり、コンピュータが計算で動いている以上、数学で表現できないものはAIが扱うことはできないという非常にシンプルで至極当然なことを教えてくれています。

また、「東ロボくん」と呼ばれるAIが東大合格を目指したプロジェクトや、画像認識技術、機械翻訳、Siriなどを例に、それらがどのように機能しているのか、また将来のAIの可能性についても言及をしています。それらを通して、AIというものがいったいどういうものなのか知ることができます。

世の中では、AIが人間を超える日が来る（シンギュラリティと言います）という話もありますが、著者はコンピュータが計算機であり、数学で表現される以上あり得ないとしてこのことを否定しています。ただ、一方で将来的にAIに奪われる仕事もあるし、それによって失業者が多数発生するという未来も予測しています。

その上で、人間にとって必要な能力は何か、教育に必要なことは何かについても指摘をしています。

AIについて、知っているようで知らないという方には、ぜひ一度本書を一読することをお勧めします。

### 諸橋甚太郎



実は私、活字を見るとすぐに眠くなる性分なものですから、1冊の本がなかなか読めない。診断士の資格勉強も、シャーペンを手につっ刺しながら睡魔と格闘したものです。

そんな私が最近眠くならずに読めたのがこちら、「俺か、俺以外か。ローランドという生き方」でございます。著者のローランド氏は最近バラエティ番組に引っ張りだこのカリスマホストで、ご存じの方も多いかと思います。彼は圧倒的な自信家ではありますが、それは単なるエゴイスティックではなく「ポジティブかつユーモアのある人間」という表現の方がしっくりきます。

彼の名言をまとめ、解説を加えたものが本の内容になります。たとえば1つ紹介させていただきますと、「寝てません。まぶたの裏見てただけです。」というのは、大事なイベントの企画会議でローランド氏がつい居眠りをしてしまい、注意されたときの返しのことば（名言）です。このユーモア溢れる返しで場の空気を一変させ、そのイベントの重要なポジションを勝ち取ったとか。

他にもフランス旅行に出かける際の、「ヴェルサイユ宮殿行ったら、観光じゃなくて内見だと思われなにか心配だなあ」とか、「井の中の蛙大海を知らず」ということばがピッタリだと言われた際の「大海さん？ごめんなさい。確かに知らないけれど、きっと向こうは俺のこと知ってるぜ！」といった迷言？まで紹介されていますが、読み進めるとそのセルフブランディングの徹底ぶりに感銘を受けます。

ちなみに、ローランド氏の一番影響を受けた本は「人を動かす（デール・カーネギー著）」だそうです。

## 広報委員会より

広報委員会からのご報告です。

◆ホームページ内にブログを開設しました。  
令和元年9月7日、新潟県中小企業診断士協会のホームページ内にブログの開設を行いました。研究会（企業再生支援研究会、事業承継研究会、診断士になりたい人を支援する研究会）、青年部、広報委員会から研究会・部会・イベントの開催案内や開催報告などの情報提供を行う目的で開設しました。ホームページをご覧になる際に立ち寄って頂きますと幸いです。

◆会員診断士の紹介ページの更新スケジュールが決まりました。

協会ホームページ内にある会員診断士の紹介の新規登録や更新をご検討の皆様は、下記スケジュールをご確認の上、ご準備・ご連絡（広報委員会メーリングリストまで）頂きますようお願い申し上げます。

<受付期間>	<新規登録・更新時期>
4月～6月末	7月末までに実施
7月～9月末	10月末までに実施
10月～12月末	1月末までに実施
1月～3月末	4月末までに実施

◆協会パンフレットをリニューアルしました。

昨年行われた中小企業診断士の日のイベントに合わせて、診断士協会のパンフレットをリニューアルしました。

「シンプルで分かりやすいもの」をテーマにデザイナーと打ち合わせを行い、完成しました。協会ホームページに掲載しておりますので、ご確認・ご活用頂きますと幸いです。

これからも診断士協会ならびに協会員の認知度向上のため活動を行っていきます。何かとご協力をお願いすると思っておりますが、よろしくお祈り申し上げます。

## クリップボード

◆令和2年1月25日（土）

【新春講演会ならびに新年会】

場所：新潟グランドホテル

時間：14：00～

講演内容：

第1部 「新潟県の経済動向」

日本銀行新潟支店

支店長 佐久田健司様

第2部 「わが社の成長戦略について」

株式会社このみ

代表取締役 相浦孝行様

## 編集後記

### 広報委員会

諸橋甚太郎

あけましておめでとうございます。令和で迎える初めての新年、その第一号の編集作業等に携わらせていただきました。今回の広報誌に寄稿頂いた会員の皆様、発行にご協力頂いた広報委員会、ならびに事務局の皆様、そしていつも「SOUP LETTER」をお読み頂いている皆様にあらためて御礼申し上げます。

さて、冬といえばこたつにみかんでしょうか。新潟の厳しい冬ですから、家や家族の温かさがなお身に、心に染みるものです。中小企業を取り巻く環境も、勝って当たり前のサッカーW杯予選でも「厳しい、厳しい」ということばが繰り返されていますが、やはりその中でも外部環境を憂うだけで、頭を冬眠状態にしてはいけなあとぼんやり考える今日この頃です。

最後となりましたが、今年一年が皆様にとって素晴らしい年となるよう、心からお祈り申し上げます。